

2. まちなかビジョン

(1) まちづくりの視点

まちなか市街地のまちづくりの視点は、

「氷見の人々の暮らしを豊かにし、氷見を訪れる人々を温かく迎え、
それぞれの活動がまちなかで重なり合う」まちづくり
を進めることとしています。

暮らす人と訪れる人の両方の視点にたったまちづくりを進め、両者の交流によってまちが
活性化し、発展する未来を目指します。

＜氷見の人々の暮らしを豊かにする＞

人々の支えあいと絆の中で、子どもから高齢者まで誰もが歩いて用がたせ、若者にとっても魅力的で豊かな生活文化を享受できるまちなか居住環境の形成を進めます。

(イメージ)

- ・市民が憩い交流できる、まちの誇りや心の拠り所となる活動拠点を創出します。
- ・高齢者にとってやさしいヒューマンスケールの歩行空間づくりを推進します。
- ・車を運転できない子ども等にも自由に移動できる、まちなか交通手段を確保します。
- ・空き家や空き店舗、空き地を、地域福祉や賑わいの地域資源として価値創造します。

＜氷見を訪れる人々を温かく迎える＞

「魚のまち」、「ブリのまち」としてのブランド力をさらに高め、氷見にしかない地域の本物に出会え、五感を満足させる体験が出来るまちづくりを進めます。

(イメージ)

- ・まちの様々な場所を気軽に探訪できる利便性の高い周遊交通や駐車場を確保します。
- ・漁師町の風情を残す家並みや水辺空間を保全活用してまちを楽しむ仕掛けをつくります。
- ・新鮮な魚を味わえるまちとして、ストーリーを感じられるサインや看板を演出します。
- ・朝のせりや水産加工等まちの生業に直にふれて非日常を体験できる場を用意します。

(2) まちづくりの方針

まちなか市街地では、既存の資源とアクセス性を踏まえて、にぎわいと魅力づくりの骨格を形成する「まちなか形成軸」を位置づけます。

この「まちなか形成軸」と連携して、特色あるゾーンごとのまちづくりと回遊を促進する交通システムを展開します。

1) まちなか形成軸の方針

「まちなか形成軸」は、ひみ番屋街周辺から氷見駅周辺を結ぶ商店街通りと、ひみ番屋街周辺から市役所周辺を結ぶシンボルロード沿いのL字型の軸を設定します。

まちなか形成軸の要所においては、観光やまちなか交通の情報等を提供する「まちなか情報ステーション」やまちなか交通への乗り換えを快適にする「モビリティステーション」を配置します。

① 商店街通り沿道の方針

○歩いて楽しい魅力づくり

ひみ番屋街の集客を商店街方面に引き寄せるため、魚のまちのイメージ戦略や、まんがのまちづくり、マルシェ等のイベントを展開し、要所に休憩の場を設けるなど、歩いて楽しい商店街の魅力づくりを進めます。

○まんがロードの延伸

まんがロードは、氷見駅まで延伸し、駅から北の橋及び漁業文化交流センターをつなぎ、氷見のまんが文化を感じられる空間演出を進めます。



© 藤子スタジオ

にぎわいのある商店街でのイベントイメージとキャラクターモニュメント

② シンボルロード沿道の方針

○魅力と活力のある街なみづくり

沿道の土地利用の促進や景観づくり、緑化等により、シンボルロードとしての魅力と活力のある街並みを形成します。

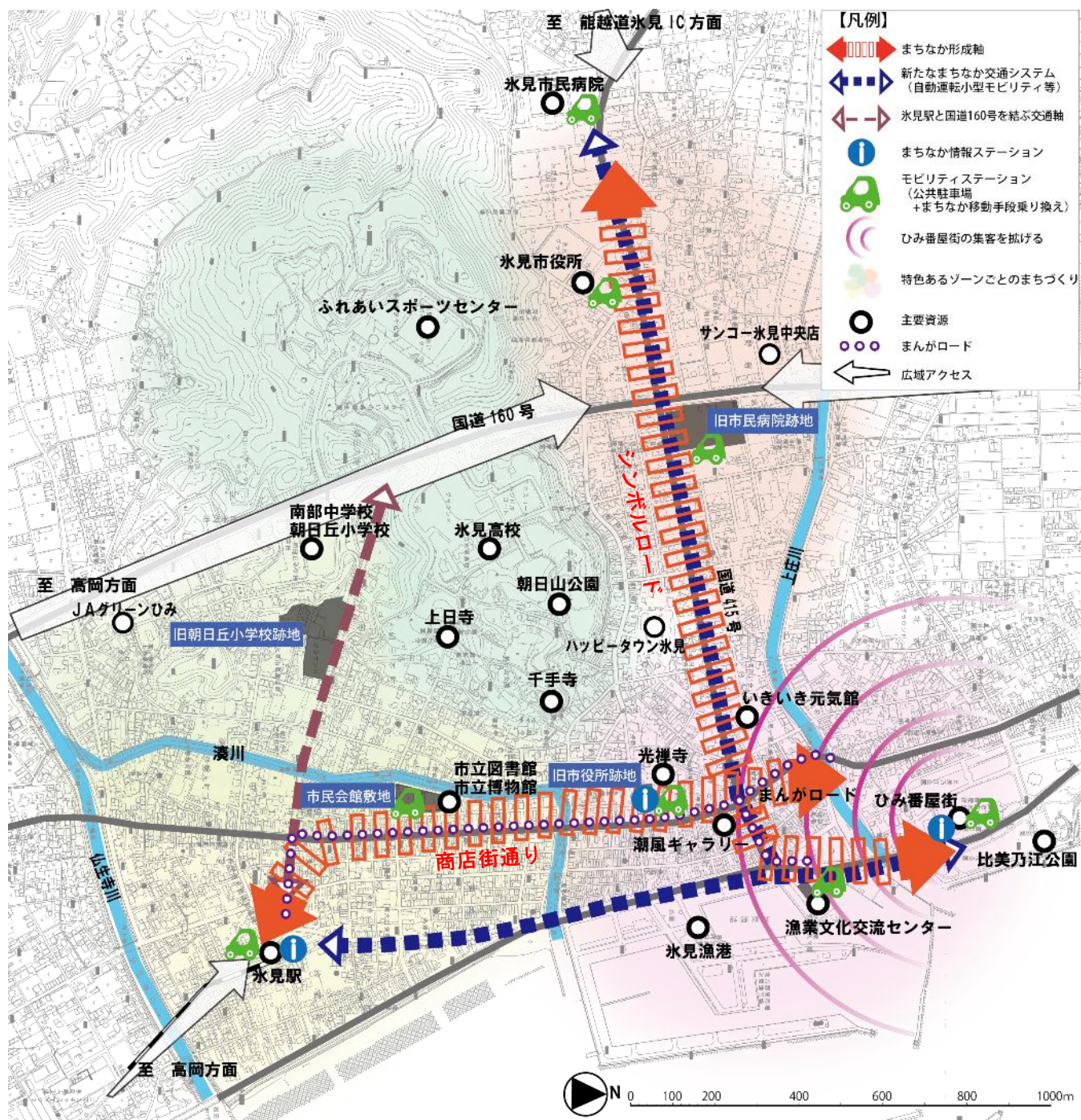
○ホスピタリティのある演出

特に、車で訪れる人々に、氷見を訪れたことを印象づける演出により、ホスピタリティとワクワク感のあるゲートウェイを形成します。



良好な景観を持った沿道イメージ

<まちなか形成軸の方針図>



2) ゾーン別まちづくりの方針

地域特性とまちなか資源の分布を踏まえて、まちなか市街地を5つのゾーンに区分します。市街地は市民の居住ゾーンであることを基本としつつも、新たな機能や魅力を付加するため、ゾーン別のまちづくりを進めます。

① 新文化・活力創造ゾーン

＜全体的な方針＞

- ・市内外からアクセスしやすい環境と市役所・市民病院との近接性を活かし、市全体の交流や活動を促進するまちを形成します。

＜土地利用・まちなみ形成＞

- ・シンボルロード沿いは、身近な生活を支える店舗等の沿道利用を促進するとともに、沿道の緑化等による美しい街並み景観づくりを進めます。
- ・倉庫群が残る風情ある上庄川沿いは、建物のリノベーションを中心として、都市活力を創出する新しい空間として活用します。
- ・旧街道沿いは、歴史ある風情を活かした街並み景観づくりや身近な生活を支える店舗等の魅力を高めます。

② 観光まちなか回遊ゾーン

＜全体的な方針＞

- ・漁業文化や生業・まんがを軸にし、既存の観光資源への移動の利便性の高い回遊性のあるまちを形成します。

＜土地利用・まちなみ形成＞

- ・商店街通りを軸に、南北の資源や駐車場等と連携し、漁業文化、まんが、飲食を楽しむ観光回廊づくりを進めます。

③ 交流・憩いゾーン

＜全体的な方針＞

- ・図書館や博物館、朝日山、湊川との近接性を活かし、氷見の「歴史・文化」を再発見できる交流・憩いのまちを形成します。

＜土地利用・まちなみ形成＞

- ・氷見駅周辺は、通勤通学者や来訪者を迎え入れるまちの玄関口として、まちのシンボル性や案内機能を高めます。
- ・商店街通りは、まんがのまちづくりとともに、個店の魅力化や空き店舗を活用した憩いの場やチャレンジショップ等により、にぎわいの連続性を確保します。
- ・町屋が続く市街地は、徒歩圏で利便性の高い店舗や小さな福祉サービス拠点等があるまちを形成します。

④ 文教・子育てゾーン

＜全体的な方針＞

- ・小中高と朝日山に近接した緑豊かな環境等を活かし、子育て支援と文化教育機能の充実による多世代が暮らしやすいまちを形成します。

＜土地利用・まちなみ形成＞

- ・湊川や朝日山の水とみどりに包まれた環境を活かした、まちの魅力の向上を図ります。
- ・文教・子育て支援機能やゆとりのある住環境を活かしつつ、空き地・空き家を活用しながら、若い世代やファミリー層にも魅力がある良質な住宅供給を促進します。

⑤ 眺望の丘ゾーン

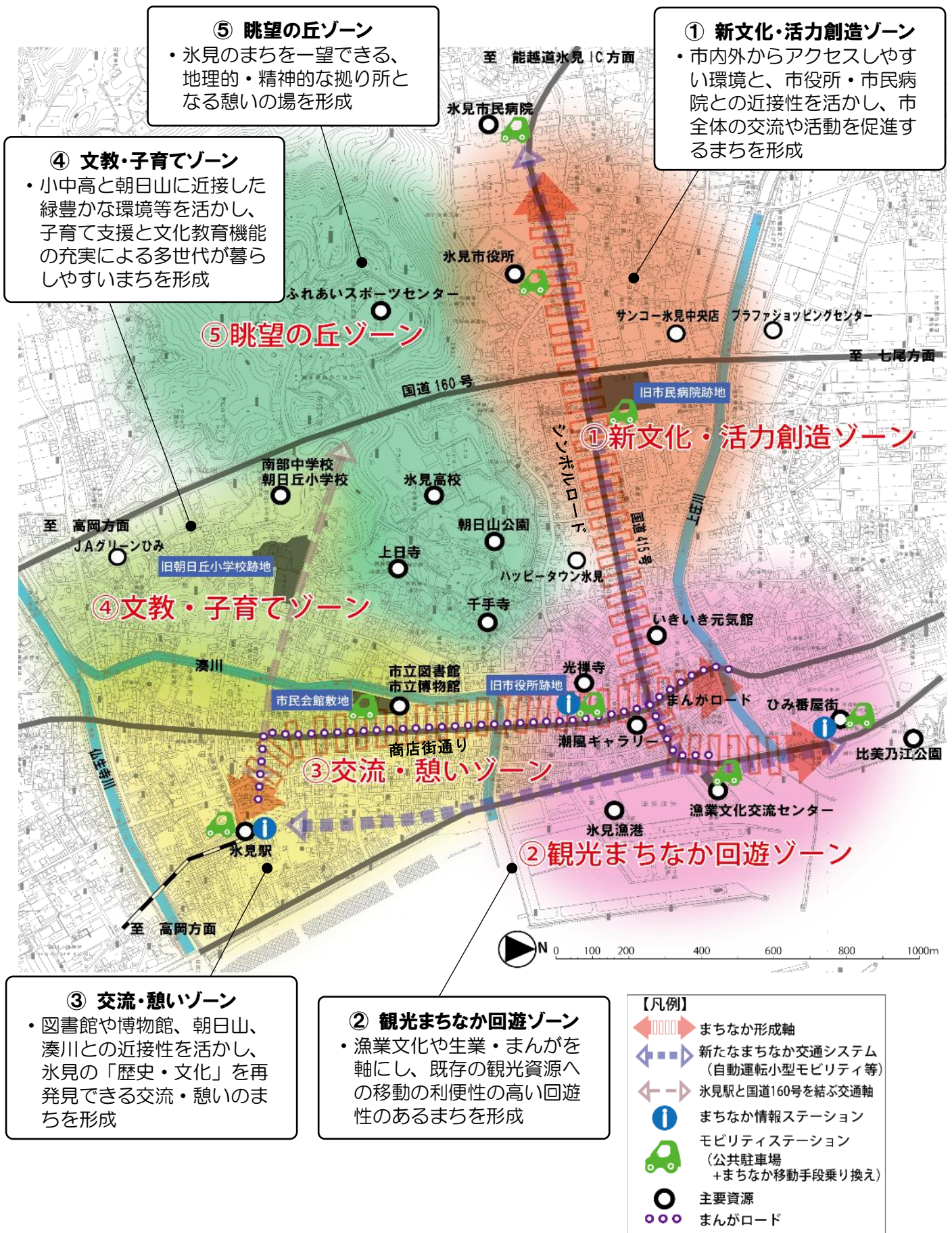
＜全体的な方針＞

- ・氷見のまちを一望できる、地理的・精神的な拠り所となる憩いの場を形成します。

＜土地利用・まちなみ形成＞

- ・朝日山の自然環境の保全や自然と調和する景観づくりと公園の整備を進めます。

＜ゾーン別まちづくり方針図＞



3) まちなか交通システムと回遊動線の形成方針

使いやすいまちなか交通や歩きやすい市街地環境とするために、まちなか交通システムと回遊動線の形成に取り組みます。

① まちなか交通システムの方針

○モビリティステーションの配置

国道 160 号、国道 415 号、JR 氷見線からの広域アクセスに対応して、まちなかを巡る交通システムとリンクする「モビリティステーション」を配置することにより、まちなかの回遊性や来街者の移動の快適性を向上させます。

モビリティステーションには、公共駐車場とともに、電動アシスト付レンタサイクルや電動小型モビルのポート、まちなか周回バスのステーション等を配置します。

○新たなまちなか交通システムの構築

市民の日常生活の足となり、観光客の楽しい回遊を生み出す、新たなまちなか交通システムの構築に取り組みます。

新たなまちなか交通システムの具体的な手段とルートは、今後の検討課題としますが、自動運転化の進展を踏まえ、将来的には、氷見駅とひみ番屋街及び氷見市民病院方面を結ぶシステム（自動運転小型モビリティ等）を社会実験等を取り入れながら進めます。

<まちなか交通手段のイメージ>



自動運転される小型モビリティのイメージ



電動アシスト付レンタサイクルポートのイメージ

② まちなか回遊動線の方針

○歩きやすい環境づくり

歩行者サインやベンチなどの休憩施設等による歩きやすい環境づくり、歩いて楽しい沿道の景観づくり、気軽に利用できるまちなか交通システムとの連携などにより、まちなかの回遊性と快適性を高めます。

○地域資源を結ぶ散策路づくり

「水辺の緑や潤いを楽しむ」、「海岸線の自然や眺めを楽しむ」、「まちなかの歴史・文化を楽しむ」、「まんがのまちを楽しむ」、「漁業等の生業風景を楽しむ」など、魅力ある散策路づくりを進めます。また、朝日山周辺の自然や旧街道の寺院等を活かして、自然・歴史探求や健康づくりなどに資する散策路づくりを進めます。

<まちなか回遊動線のイメージ>

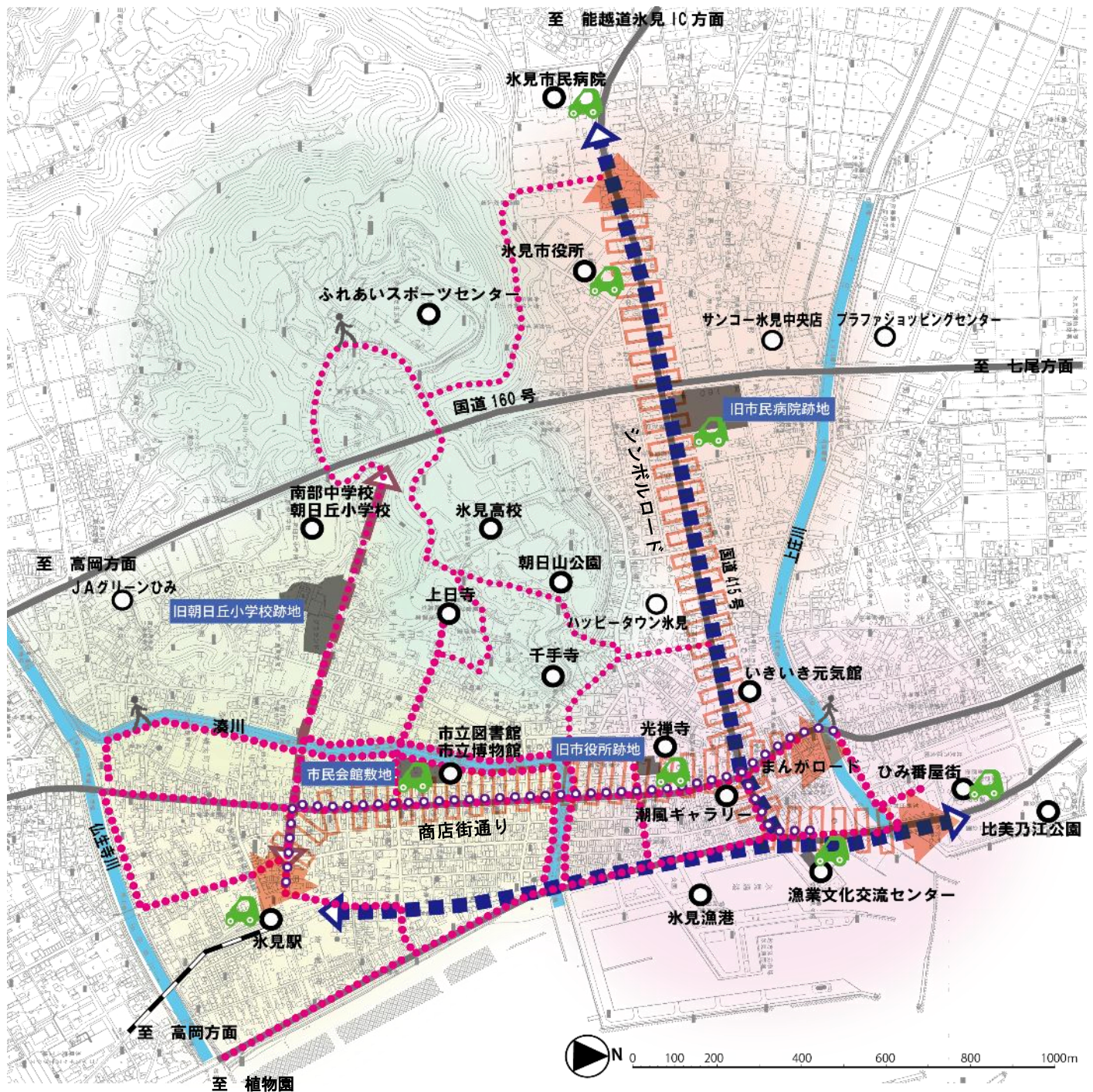


地元産材を利用した休憩の場のイメージ



水辺を活かした散策路のイメージ

〈まちなか交通システムと回遊動線の形成方針図〉



【凡例】

- まちなか形成軸
- 新たなまちなか交通システム
(自動運転小型モビリティ等)
- 氷見駅と国道160号を結ぶ交通軸
- まちなか回遊動線
- モビリティステーション
(公共駐車場
+ まちなか移動手段乗り換え)
- 主要資源
- まんがロード

4) 4つの公共空地の防災的な位置づけ

地震の想定として震度 6 強から震度 7 の激震リスクも予測されているため、それぞれの跡地利用に関しては、耐震と津波想定への配慮が必要となります。

また、まちなか市街地には、上庄川、仏生寺川、湊川が存在しており、これまでの「50～150 年に一度」から「1000 年に一度」の降雨での浸水想定が、県によって検討されています。現在の浸水域が、将来的には拡大する可能性もあり、浸水対策への配慮も必要です。これらを踏まえて、4 つの公共空地の防災的な位置づけを示します。

① 旧市民病院跡地の防災的な位置づけ

旧市民病院跡地周辺での公共施設の避難場所が少ないことを踏まえて、指定緊急避難場所として位置づけます。

また、緊急通行確保路線である国道 160 号と国道 415 号の交差点に位置することから、市全体の防災拠点として、駐車場を活用した物資の集積場所や活動拠点としての利活用も想定します。

<防災上の用途>

- ・避難場所
- ・受援拠点（各種機関等）

<施設計画の配慮事項>

- ・浸水対策
- ・地震対策
- ・防災倉庫
- ・広い駐車場等および広場（平地）

② 旧市役所跡地の防災的な位置づけ

商店街周辺での公共施設の避難場所が少ないことを踏まえて、地域の防災拠点として指定緊急避難場所として位置づけます。

<防災上の用途>

- ・避難場所
- ・平時の防災活動拠点

<施設計画の配慮事項>

- ・浸水対策
- ・地震対策
- ・防災倉庫
- ・広場（平地）

③ 市民会館敷地の防災的な位置づけ

教育文化センターは、周辺に高い建物が無いことから、地域の防災拠点として、建物を残すとともに、市民会館敷地については、広い駐車場等を活かして、平時の防災活動拠点としての利用も考えます。

<防災上の用途>

- ・平時の防災活動拠点

<施設計画の配慮事項>

- ・浸水対策
- ・地震対策
- ・防災倉庫
- ・広い駐車場等および広場（平地）

④ 旧朝日丘小学校跡地の防災的な位置づけ

旧朝日丘小学校は、現在指定緊急避難場所に指定されており、新たに活用される際も同様の機能が求められます。

国道 160 号からのアクセスが容易であり、既存体育館や広い敷地があることを踏まえて、物資の集積場所や活動拠点としての利活用も想定します。

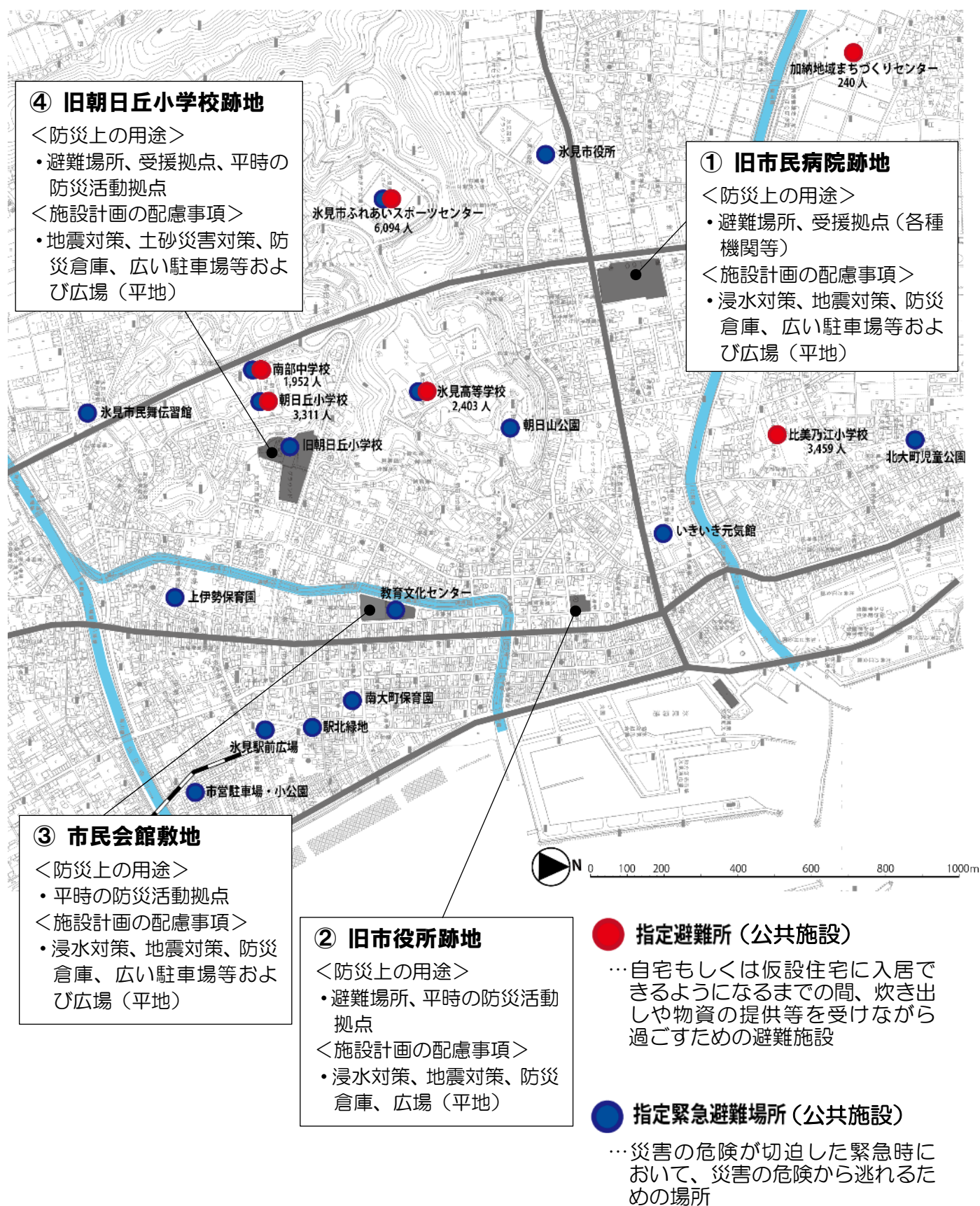
<防災上の用途>

- ・避難場所
- ・受援拠点
- ・平時の防災活動拠点

<施設計画の配慮事項>

- ・地震対策
- ・土砂災害対策
- ・防災倉庫
- ・広い駐車場等および広場（平地）

＜4つの公共空地の防災的な位置づけ図＞



(3) 公共空地等の利活用の方向性

まちなかビジョンを実現し、市街地の活性化を図っていくために、4つの公共空地と、漁業文化交流センター、JR 氷見駅、比美乃江公園（ひみ番屋街）の活用のあり方が重要となります。ゾーン別まちづくり方針と各公共空地や主要施設の立地を踏まえて、以下にそれぞれの利活用の方向性を示します。

旧朝日丘小学校跡地の利活用の方向性

「小中高と連携した
“総合的な子育て支援の拠点”」

豊かな自然・文教環境に恵まれた保育・幼児教育施設のある子育て支援の拠点の形成

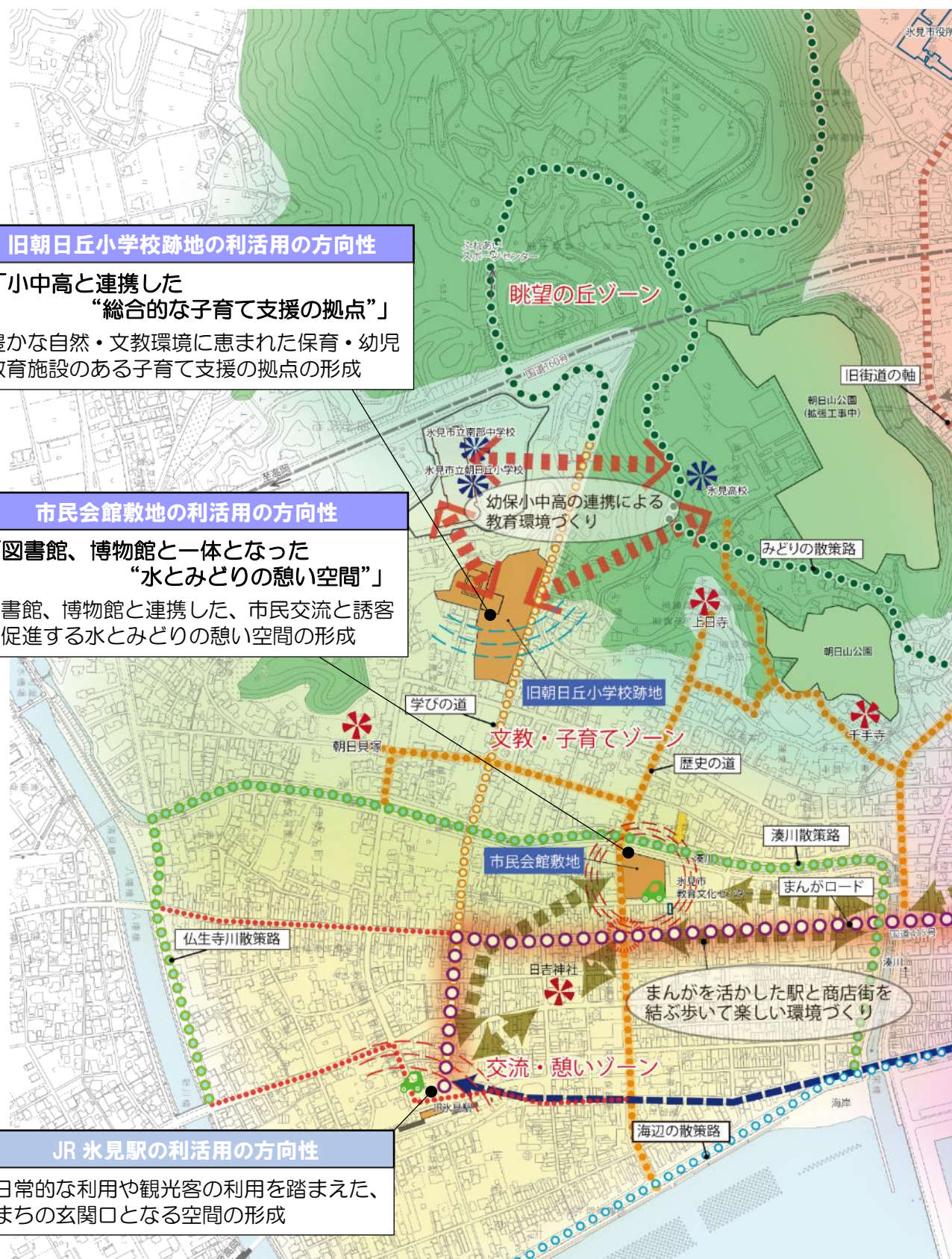
市民会館敷地の利活用の方向性

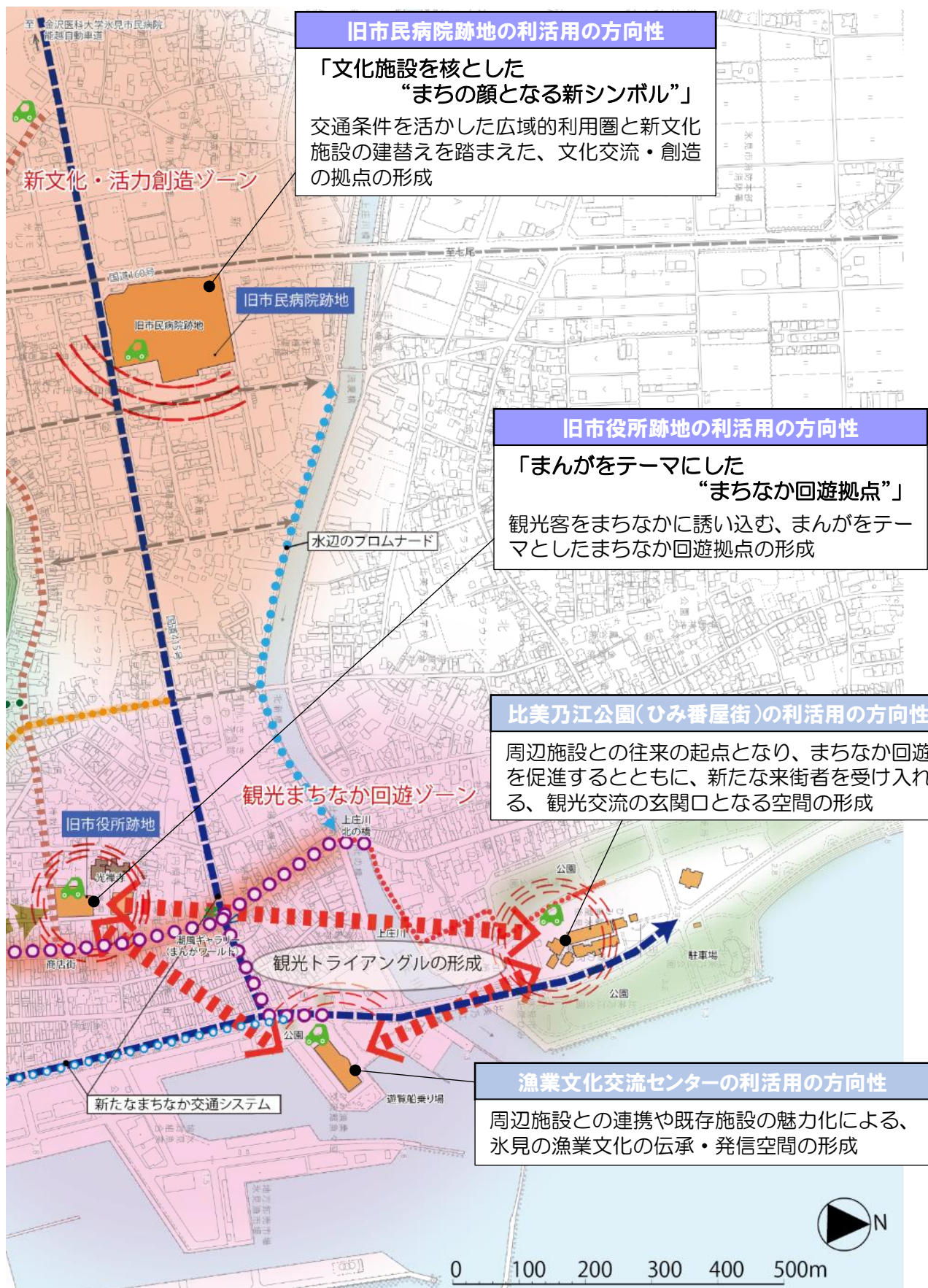
「図書館、博物館と一体となった
“水とみどりの憩い空間”」

図書館、博物館と連携した、市民交流と誘客を促進する水とみどりの憩い空間の形成

JR 氷見駅の利活用の方向性

日常的な利用や観光客の利用を踏まえた、まちの玄関口となる空間の形成





グランドデザインが描く、未来のまちなかの過ごし方

まちなかビジョンを踏まえ、まちなかに暮らす人々、訪れる人々が、まちなかで見せる行動や表情などを想像しながら、未来の暮らしや観光のイメージを描きます。

◆まちなかを利用する高校生たち



- 最近の週末の楽しみは、新しい文化施設に行って、仲間とテーブルでおしゃべりしたり、ランチをしたりすることです。ここに来ると、懐かしい中学の同級生にも会えます。
- スタジオを借りてバンド練習に精を出している仲間。学習スペースで受験勉強に励む仲間。芝生広場でバトミントンに興じる仲間。それぞれが、自由に居場所を見つけて過ごしています。
- 市外からやってくるアーティストの創作ワークショップに参加するのも楽しみです。こないだ作った作品は、ギャラリーで展示される予定です。
- 今日は、夕方から映画鑑賞会があるので、友達に連絡して、一緒に観ることにしました。
- 焼きたてパンを買って腹ごしらえをしながら、友達が自転車で来るのを待つことにします。



◆まちなかに住むシニア世代

- 朝日が昇るとともに目覚め、日課の散歩に出かけます。
- 最近歩きやすくなったお気に入りの海岸通りを歩きます。ジョギングの若いカップルが通り過ぎていきます。
- 昔ながらの町屋を改修しているところを見かけます。若い住人も少しずつ戻ってきているようです。
- 歩き疲れたので砂浜に降り立って、しばらく波と水平線を眺めます。
- 家に帰ったら、朝食を食べて一休みしたあとは、新しくリニューアルされた湊川沿いの図書館に行きましょう。
- 湊川の雰囲気を活かしたこの図書館のお気に入りの点は、水辺のテラスや中庭で、のんびり読書が出来ることです。
- 世界の絵本や様々な図鑑が並ぶ乳幼児コーナーでは、子供との時間をゆっくり過ごすことができるようになっていて、同世代のお母さん同士の新たな出会いの場となっています。
- 私はシニア世代ですが、そんな様子を見るのもほほえましいです。
- 図書館で郷土史研究会の仲間と出会ったので、お昼を一緒に食べることにしました。



◆まちなかに住み始めた子育てファミリー

- 朝は忙しいです。2人の娘に朝食を食べさせて、こども園に下の子を送り届けて、そのまま職場に直行します。
- 下の子が通う子ども園は、周囲のみどりをうまくとりこんだ、木のぬくもりある空間になっていて、窓から差し込む光が気持ちいいです。
- 上の子もすぐ近くの小学校に通っているので何かと便利です。学童クラブも併設されているのが共働きの私たちにとってはうれしいです。
- 仕事帰り、子どもたちを迎えに行って、商店街でお買い物。お店の人も子どもを気にかけてくれるので、何かと安心です。上の子も、学童では、中高生に遊んでもらったり、勉強も教えてもらったりしているようです。
- ここには交流園と菜園があって、子どもから大人まで集まる収穫祭もひらかれています。
- 地域の様々な人々の支えがあるコミュニティに暮らせる幸せを感じています。



◆まちなかに訪れる中山間地域在住の女性

- 毎週水曜日は、同じ在所の友人とバスに乗ってまちなかに出るのが楽しみです。
- いつものスーパーマーケットもいいですが、まちなかの広場で朝市がひらかれていたのでも買い物をしました。農家の人々の手作り野菜やお惣菜で、観光客にも人気があるそうです。
- まちなかには、絵画の展示会鑑賞や詩吟の練習、カラオケ、お花や着付けの稽古など、様々な楽しみがあります。
- 先週は孫の音楽発表会を観に、新しい文化施設に来ました。
- ここは、一人でボーっとしたり、仲間とおしゃべりしたり、健康づくりをしたり、市民の思い思いの自由な使い方を受け入れている場所です。
- 夜まで明かりが消えないスタジオやキッチン、パーティなどに使われ、夜間には屋外デッキで星空鑑賞会なども催されています。
- 山間部に住んでいても、ここにくれば、演劇やコンサートを鑑賞でき、新しい刺激に出会え、交流と仲間作りができることがうれしいです。



◆氷見駅に訪れた観光客グループ



- 氷見駅に初めて降りました。駅舎には、まちの見どころや食事処が描かれたイラストマップがあって手に取りましたが、高校生がつくったそうです。
- 駅前に出ると、まんがキャラクターが描かれたカートが出迎え、みんなの旅行気分が一気に盛り上がります。
- 3人でカートに乗り込み、町屋や寺社、海の風景を眺めつつ、まちなかを進みました。運転手さんの案内で、まちの歴史に興味がわきました。
- ひみ番屋街わきの比美乃江公園で降り、海辺のカフェから海越しの立山連峰を眺めつつ一休みします。とても雄大な景色に感動です。
- ひみ番屋街では、足湯につかり、お土産を探しました。
- 観光案内コーナーで話を伺うと、氷見は藤子不二雄[㊤]先生の故郷だとか。まんがロード沿いに歩いて、潮風ギャラリーでアートコレクションを見ることにしました。
- まちを探訪していると夕方になったので、バスに乗って民宿に向かいました。



© 藤子スタジオ

◆氷見に観光バスで訪れた団体客

- 氷見インターを降りてシンボルロード沿いに走ると、特徴ある建物が見えてきました。最近できた新文化施設だそうで、氷見の新しい魅力の発見です。
- ひみ番屋街でバスを降り、楽しみにしていた氷見の魚の昼食時間です。そのあとは、まちなかのまんが広場で落ち合うまで自由時間となります。
- 観光案内コーナーにはコンシェルジュがいて、観光ポイントやガイドツアーを紹介してもらえました。
- 私たちは、電動アシスト付きの自転車を借り、漁業文化交流センターに向かいました。ここでは、氷見の漁業文化が体験でき、遊覧船で定置網漁場も見学できました。
- その後は、商店街をカラクリ時計まで進みつつ、干物屋さんやお菓子屋さんも覗きました。ちょうど3時のカラクリ時計に間に合い、記念写真を撮りました。
- まんが広場に戻ると、キッチンカーが評判の氷見牛コロッケを販売していました。
- ここで自転車を返し、待っていた観光バスに再び乗り込んで、次の目的地に向かいました。

